予防鍼灸研究会（SGPAM）

第27回定例会抄録

テーマ：

気と鍼灸

～東西医学が拓く医療の未来～

2026年11月22日

目次

ナイチンゲール看護論……守屋 治代2
ケアの未来を俯瞰する……東郷 俊宏3
経絡は脳の中にあるのか?……中谷 哲4

ナイチンゲール看護論
～“Nature”の声をきくこと～

元東京女子医科大学看護学部・看護学研究科「基礎看護学」教授
守屋 治代（もりや はるよ）

19世紀に看護学を創始したナイチンゲールは、“Nature”（大いなる自然・根源的自然）に看護の原理を見出した。ナイチンゲールの“Nature”は、全ての生きているものの内と外で働いており、生命体の根底に働いている原理・働きである。

従ってナイチンゲールにとって、「病気」とは、健康を妨げているものを取り除こうと“Nature”が働いている修復過程（reparative process）であった。人間が癒すのではなく、病気のプロセスにおいて既に“Nature”が働いているのであるから、看護者のすることは、「いのちの場」を“Nature”が病気や傷害を予防したり癒したりするのに最も望ましい条件に整えること、となる。

こうして、「自然法則」のなかに、神の意志や目的、秩序や美への愛、安楽や安心や慰めを願う慈愛を見出すことができるというナイチンゲールは、この法則を拠り所に働き、“Nature”が示すところのものをよく観察し「真実を述べる」ように、という。人間の「本当の務め」は、「（神の）愛と叡智と力のすべてを生命の現実によって検証すること、……その全ての継起に関して、これらを完全に見きわめるよう努力すること」であり、ナイチンゲールにあっては、これを具現化したものが公衆衛生改革であり、病院改革であり、看護の業の確立だったといえる。

略歴
1981年　千葉大学看護学部卒業、国立療養所多磨全生園看護師
2016年　大阪府立大学（現 大阪公立大学)人間社会学研究科博士後期課程修了　博士(人間科学)
2014年　東京女子医科大学看護学部・看護学研究科　基礎看護学 教授
現在、常葉大学健康科学部看護学科 非常勤講師、(一般社団法人)静岡県訪問看護ステーション協議会事務局　非常勤職員
所属学会　人体科学会 副会長、日本ホリスティック教育/ケア学会 理事、千葉看護学会
著書　『「看護人間学」を拓くナイチンゲール看護論を再考して』看護の科学社（2016年）

ケアの未来を俯瞰する

明治国際医療大学客員教授
鍼灸サロンえれじあぶらて〜ろ院長
東郷 俊宏（とうごう としひろ）

演者は2005年以来、世界保健機関（WHO）と国際標準化機構（ISO）の双方で伝統医学分野の国際標準化に関わってきました。そして2025年11月には、演者が2011年以来、ISOにて提案してきた腧穴に関する情報規格、Categorial structure for representation of acupuncture Part 1: Acupuncture points（鍼灸を表現するための範疇構造規格 Part 1：腧穴）が国際規格ISO 16843-1として正式に出版されました。この情報規格は東アジア伝統医学における鍼灸、あん摩マッサージ指圧、推拿等の治療法に限らず、アーユルヴェーダやチベット医学、Micro acupuncture、Scalp acupuncture、耳ツボ療法など、体性刺激を伴うあらゆる施術で使われるツボ（腧穴）の表現を可能にすることを目的としています。

本規格の作成過程で常に演者の頭にあったのは、私達が普段なにげなく「東洋医学」「西洋医学」と呼んでいる医学を「俯瞰」する視座の重要性です。周知のように「東洋医学」と呼ばれるものには国内外の様々な流派だけでなく、中国に起源を有する東アジア伝統医学の他に南アジア医学（アーユルヴェーダなど）も含まれますし、また西洋医学と私達が呼ぶものも時代によってそれぞれ特徴を持つ英国医学、ドイツ医学、米国医学に分かれることがあります。

本講演では、そのような視点を持った上でナイチンゲールの看護論、EBM、東洋医学を含めて「ケアとは何か」を考えていきたいと思います。

略歴

1991年　東京大学文学部中国語・中国文学科卒業
1998年　明治鍼灸大学大学院鍼灸学専攻科修了
1998年　京都大学人文科学研究所助手
2004年　鈴鹿医療科学大学鍼灸学部 助教授
2009年　東京有明医療大学保健医療学部 准教授
2011年　順天堂大学大学院医学研究科博士後期課程修了（博士（医学））
2015年〜2017年　東京有明医療大学保健医療学部大学院教授
2024年　オンライン講座「東洋医学の未来と愛を考える歴史教養講座」を開講
現在　東京医療保健大学、鍼灸専門学校（教員養成科含む）7校で非常勤講師

経絡は脳の中にあるのか?
～『気と意識』をめぐる身体観と神経科学～

日本伝統鍼灸学会理事・研究委員会委員長
耳介画像鍼治療研究所・風の子堂鍼灸院院長
中谷 哲（なかや さとし）

本講演では、伝統鍼灸における「気」と「経絡」を、身体感覚と意識の形成という視点から再考する。はじめに、「气」「氣」の文字、日本語における「気」の用法、古代中国の身体観をたどり、気が単なる未知のエネルギーではなく、身体内部の変化を捉える総括的な経験として理解できる可能性を示す。次に、ダマシオの内受容感覚論、脳内ネットワークの結節点形成、腸脳相関、体外離脱、幻肢および脳内身体地図に関する研究を手掛かりに、意識と自己意識が身体から送られる情報の統合によって成立する過程を検討する。さらに、経絡現象を、生得的な神経構造を土台としながら、成長、生活、反復刺激、注意、教育によって形成される「機能的な身体情報の地図」として捉える仮説を提示する。また、日本伝統鍼灸学会研究委員会が2022年度に実施した「気と意識」に関するアンケート調査を紹介し、気に関する感覚が学習や臨床経験によって自覚・強化される可能性を考察する。気を感じる経験と、その原因についての説明を区別しながら、治療者が自らの身体、感情、期待を観察し、客観性と中立性を保つことの重要性を論じる。最終的に、「気は他人に向ける前に、まず自分自身を知り、整え、身を守るために使う」という臨床倫理へつなげたい。

略歴

関東鍼灸専門学校名誉講師
お茶の水鍼灸専門学校非常勤講師
MCPHS大学院非常勤講師
長年にわたり鍼灸臨床と研究に従事し、中谷式耳介画像鍼治療およびNAIRM方式神経反射治療を考案。生命の熱力学と神経反射の観点から鍼灸治療の理論化と体系化に取り組み、国内外への普及と後進の育成に努めている。